



扶桑皇統記圖會
三編

2109
13





2109
13

扶桑皇統記圖會後編卷之二目錄

山城國鞍馬寺関基

峯延法師退治大蛇條

奥州夷賊蜂起官軍敗績

重而東征使下向條

鞍馬の峰延法力を以て大蛇を退治する圖

感靈夢大養得奇子

坂上田村丸遇延鎮傳

官軍与夷賊于奥羽合戦

田村丸武勇討大熊丸條

田村丸明智賊の幻術と挫き賊將大熊丸を討圖

毘沙門地藏の二尊雲中小頭あな田村九たむら軍ぐんと援まほのし圖ず

延鎮語えんちんご兩服りやうふく士奇しき恃し

乾臨閣けんりんかく御遊ごゆう緒繼じゆ昇しやう進しん

平城へいぜい天皇てんわう御即位ごごとう并讓びやう位ゐ

天皇てんわう加茂かもの齋院さいゐん御幸ごきやう

浅山あさやま五吾ごご遭あは盜難たうなん入水にすゐ

浅山あさやま五吾ごご湖水こすゐ不陷ふたふ漢父かんふの為ため小一命せういちめいと助たするる圖ず

田村たむら九く建立けんたう清水しみず寺てら條ぢやう

老人らうじん星せう出現しゆげん大救たいきう支し

嵯峨さげ天皇てんわう受禪じゆぜん南都なんと擾乱じやうらん

有智うち子し齋院さいゐん詩し作さく條ぢやう

漢父かんふ兵へい太湖たいこ上助じやうたすけ浅山あさやま事じ

終

扶桑皇統記圖會後編卷之二

浪華好蓮堂野亭參考

山城國鞍馬寺開基

峰延法師退治大蛇條

奥小中大夫藤原伊勢人おくこちゆうだゆうふじやうげんいせんと一人ひとりあり佛道ぶつどう小飯こいひ依よとと深ふかく觀音くわんおん菩薩ぼさつと

信仰しんぎやう何卒なんそつ一個いっごうの靈地れいぢを得えて佛堂ぶつどうを建た立たし觀音くわんおんの尊像そんざうをおん女に置おせ

やとと多た年ねん心しん小思こし暮く々々小延こえん曆りき九年くわんねん冬ふゆ十月じゆがつ頃ころ一ひと夜よの夢ゆめ小遇こぐ然ぜんとと洛北らくはくの

山中さんちゆう行ゆきとと白髮はくはつの老翁らうおう一人ひとり出い来きり伊勢いせ人ひと告つて曰いは此山こゝを天下てんか無な双じゆうり

靈地れいぢ小こ山さんの形かたち三さん鉆しん杵し小似こに常つね小五色こごしきの雲くも變へん黷じつりり你なん此地こゝ小佛こぶつ場ば

其利益そのりやく廣ひろ大おほ福ふくを得え度た無な量りやう毫ごと示しるる小こを伊勢いせ人ひと

再拜さいはいとと尊そん公こう何人なんびと在ありりとと向むかひひ小翁こわう各おのづかてて予よ八はち是これ王城わうじやうのおん舊こ寺てら也

船明神ふねあきかみなりと告つぐぐとと夢ゆめ八はち覺さめ々々伊勢いせ人ひと垂た垂た夢ゆめの御告ごつとと感かん悦えつす

とふも。其夢小見山を何所なる更と記憶は。是小依て思煩ひたるがつも
く思惟し。其馬ハ靈歎ふ。路を知とる。我騎とるの白馬ハより我心小
合し名馬かり。渠と追放して夢小見。靈地を尋し。若くハ彼地を知更も
有ん。て件の白馬を曳出し。鞍を置。曹を咄せ。諸馬小向ハ古の管仲が馬
雪中小路を知て。猪軍と導。其歸し。を。你も我夢小見。山中と尋。ひ
知し。め。と言。せ。二人の童子と馬小隨。り。て追放し。る。小。白馬ハ京城の北へ
走り。遠くと川を渡り。谷を過て。一座の山小到り。其取の中。小。笛り。て。數声。嘶。れ
る。る。由。童子。其地。小。標。を。立。置。馬。を。曳。て。去。り。伊勢人。小。斯。と。告。れ。大。小
始。び。童子。と。引。路。と。て。其地。い。り。四。辺。を。巡。見。小。始。り。夢。小。見。る。と。ころ。と。此。も
違。ハ。む。伊勢人。白馬の。靈。織。を。感。ん。山。中。と。徘徊。と。る。草。茅。の。中。小。於。て。毘。沙
門。天。の。像。を。拾。得。り。伊勢人。奇。特。の。更。小。思。ひ。立。歸。り。工。匠。小。命。ト。彼。地。小。一

宇の寺が建。立。し。拾。得。る。毗。沙。門。天。の。像。と。安置。す。鞍。置。る。馬。の。知。し。地。あ。れ
む。と。鞍。馬。寺。と。号。し。る。御。子。頭。山。も。然。小。伊勢人。思。ひ。る。ハ。我。夢。年。觀。音。の。像
於。安置。せ。ん。志。願。か。り。る。小。毗。沙。門。天。の。像。と。得。り。於。以。て。一。寺。と。建。立。せ。り。と。い
ども。い。ま。の。日。の。宿。願。を。果。さ。し。と。心。満。足。せ。り。と。い。ふ。其。夜。の。夢。小。天。童。一。人。出
現。し。你。毘。沙。門。天。を。得。て。い。ま。の。念。願。を。果。さ。し。と。思。ふ。觀。音。と。毘。沙。門。天。
異。る。れ。も。其。本。同。一。跡。あ。れ。む。你。が。念。願。已。小。満。足。せ。り。と。告。る。と。ひ。く。夢。見。る
伊勢人。是。小。り。て。疑。心。勿。心。ち。解。脱。し。限。り。無。く。後。日。小。別。一。寺。と。建。立。し。て
觀。音。大。士。の。像。を。安置。し。る。今。鞍。馬。寺。の。西。多。觀。音。院。是。り。斯。て。後。諸
人。鞍。馬。寺。の。多。門。天。を。信。じ。祈。る。小。靈。驗。灼。然。と。更。卿。音。の。物。小。應。と。る。か。如。新
願。と。て。成就。せ。し。と。い。ふ。更。な。く。殊。更。富。貴。を。よ。め。事。端。的。な。れ。貴。賤。の。天。
小。絶。る。更。な。り。後。年。峯。延。法。師。と。て。勇。猛。精。進。の。僧。鞍。馬。寺。小。住。侶。と。い。ふ

其比後の山の溪間小大蛇栖り時々寺僧土民を吞食其害小遭者
を僧俗とも大いそ是を愁ひ多峰延此妖孽を退ん六月廿日
後堂於て大獲摩手と修せしるる日中の比異風俄小吹起り北嶺より
件の大蛇岩を動し樹を仆して出来りぬ其財眼鏡の如く紅の舌
火焰小一般より侍者乃僧大い強た恐む師を捨て逃走り
伏伏峰延些も動せを頻小毘沙門天の真言と誦せしれれを
不思議や一天小黒雲群り起り怒風砂石を吹捲とひくく
彼大蛇忽ち段々小斬きて死し其後諸人弛集りくく小兵
流まきく河水のくく切まて肉の岳の如く是偏小峰延和尚の
行力小く毗沙門天の威神力を顯しもくもろかりと諸人感
じ懐ひ多る諸土人四五十人寄大蛇の死肉を静原山へ運ひ
ひ棄るる其地を大蛇峰とぞ稱し今小ゆるまで六月廿日小竹切
といふ行吏と修さるるハ彼大蛇を斬り遺意也と云

奥州夷賊蜂起宣軍敗績

重而東征使下向條

桓武天皇平安城の新宮小遷幸かりのハ後菅原真道藤原葛野
名本命て新都の内小於て公卿百官の宅地を割定て領とせし
るる小百官百司大い悦び各居宅を構へ移住し々れを奈良長岡
木の士農工商も皆く我先と新都へ引移りしるるハ都の繁昌
たりと云ふ最賑しく穩かりたるハ忽ち東國より急馬追ふ
菟着奥州小大熊名とや夷賊蜂起とて郡縣を劫り掠り其逆威
猛烈なるがハ國司も制さるる隻能く二國の強動以外あり
ハ間急た征討の大將を下し給ひるがとぞ辨へるる帝大い
發怒し群臣召れり御評議の上參議紀古佐美と征東大將軍小任
り安部乃と賜り高田道成を副將軍と池田真牧を帝軍の別將
と安信里繩を兵陣と定め官軍二万騎を授けしは是ハ依て
諸將勅命と奉り花や不軍裝を



鞍馬の
峰の
延法
大蛇と
退治
し

鞍馬
延

鞍馬延法

鞍馬延法

敷平節乃使の大旗を真先小押を東小向く首途の鎬三度放し意氣揚々として都と進發し々々も勇ましく又えふ多斯て官軍與州小下著一國人小案内を衣川の此方小陣營と構賊軍と一戦小蹴散さんと軍を定め四五日兵馬の疲労と休め己小三軍旁々忘れをさす明日戦を催さんと宵より準備をかり曉方小兵糧をつらひ朝霧いまだ雲霧のうらより先陣二陣段々小押出衣川の岸までうら川向をへせむ賊軍己小出張せしと覚く川霧深く望電する中より楯を敲れ腹を鳴して喊を噴とど發々々官軍是を夕借ハ賊徒北岸へ出張せしと一戦小蹴散せよいま大將の下知もあられ小逸雄の若者ども口々奥を合し川岸小並んが鉄を揃く雨のてく矢を射れを賊方よりも矢を射返し互小矢軍小時をうはも内霧まがひ小霞ささるるゆへ先陣墨繩の麾下會津社上名大伴

五百越亦何時まで矢種を費をなれ只少渡り蹴散せよと牛行於二百騎五百騎追く小川を渡り太刀技連喊を發せてもくればも楯のさほ小ひと賊軍奥をも合まると静り及て在るを官軍も敵小謀計ありやと疑ひ少時猶豫々々え未賊將大熊九の幕下小智才の者有て京軍と欺んとユタク葦木偶を造り紙むく甲冑と作る著旗旗も紙を以て大勢屯せし体小とてふ其後小二百人をくらす率とねれ小喊を發り矢を射させると京軍の川をさる時小賊兵皆退れ山を登社中あど小埋伏せしなり官軍を敵ふるる偽の計ありともあむとや敵小少くの謀計ありとも何程乃更看ふれれや伐やと呼り勢ひ猛く鋒を揃くちてくれは素り葦木偶のてよ太刀の當らぬされおとむくと休まると京軍是をよしくはれ皆葦土偶なり是ふよりて衆平大尔腹を互悪た賊徒の謀計あとして蹴散る

け抜て向をえね。山根小旗旗を翻して賊軍を討つて休たれむ。あれ伐散せよ。
と強り行先陣の大將墨繩も賊軍を討つて憤り味方小續して強ひつる。是
もまた空陣なり。衆兵憫みて長途を励み強ひ人も馬も疲れつる。是
勢をまき少時息を休むところと思ひもね山彦より一千騎余の賊兵を
出し衣川の北岸小群と京軍の歸る路を切塞ぐる。京軍は須波敵ハ
彼所へ出て歸る路を塞ぐ。憎も憎し人も余さむ。慶全小せむ呼り強ひ向ハ
んとする内此所彼所の杜林竹藪多し。二百騎三百騎の賊兵追ひ起
り。勞果て隊もまざる。官軍小矢を射り喊を發して伐つる。官軍又是ハ
強ひつる。物も物と敵もさう。合鎬を削つて戦ふ。不意と折れし。周
障隊乱して見えざる所。又賊將大熊九千騎を將く山彦より殺出。官
軍中もさう。雷雨の如く矢を射り喚び叫んで攻めつる。官軍は強ひ難

義とかり隊散乱して手負戦死數をまき。會津社九大伴五百徒を先とす。究
竟の勇士十余人戦死。墨繩も矢を二筋射付れ。這くの体もく敗まらる。賊軍
も勝り乘て八方より採る。小ぞ官軍ハ惣敗軍とあり。恥を知る武士も乱
軍の中戦死。或ハ敵と刺違て死。言甲斐たれハ敵も追捲られ川水も濁
る。洞小沈み。死亡するも多し。二陣の池田真收も先陣を救ふ。川岸追
くけい。北岸の賊兵の為か散り射す。且敵の伏兵起りて不意ハ
伐まらる。此隊も散り敗軍。三陣の高田道成是を救ふ。強ひ付り。賊軍
の伏兵も困まれ。主將道成戦死。士卒も多く討て敗走。味方
味方の敗軍とまき。是を救ふ。早追。味方の敗軍。追未。味方
とかり。更ふれ。今六脚飯陣ある。と言々。小より敗軍を収。爾府を退。敗
戦點檢。とる。小。死者二千五百人。負傷者千二百余人。小及ハ敵の首を討。敗

百五十級も足ざりぬ。三軍大氣を屈し、再び戦へ義勇もなす。二十日、計り
管電りて、後小軍の絆縶おのれ、且送りぬ。賊徒、京軍を渡り、津本に據り、
して郡御と劫掠せらる。日、官軍の陣、ゆる者絶間、見依て古佐美
諸將と商議し、出陣して戦ひを挑む。とらる。毎度賊の謀針、陥りて敗軍、
只兵を折くのゑ、おのれ、終、真洲の在陣、叶をす。と、京都へ逃上り、帝、大
逆鱗在り、大將軍古佐美を召出され。軍慮拙く、見苦れ、敗軍して、多く兵を
折たる罪と責のひ、くる。古佐美、恐入先陣、墨繩敵を狂人、と、意り、かく敵の
謀針、小中、と、兵士を多く折たり。味方銳氣を屈し、其より、兵勢弱り、敗績せし
趣死を奏し、る。帝、漸く古佐美を罪と宥し、閑居せしむ。真、牧墨繩の
両人、官と、利、追放させ、ひ、其後、又文武の諸臣を召集のひ、東夷と、征
伐せしむ。大將を維彼と、御絆縶あり。衆儀、依て、大伴、弟、名、と、征、大

將軍小任、百濟王、俊哲、藤原真、鷲坂上田村、三入を、副將軍と、定め、ひ
宣軍、二万二千騎を、授け、急、真、洲へ、馳下り、兎、徒を、不、目、殊、伐、と、す。の、宣、軍
を、下、され、猶、す。東海、東山、西道、の、國、司、守、護、人、軍、兵、を、出、し、東、使、小、加、勢、す
る、れ、上、旨、命、の、ひ、ら、大、伴、弟、名、俊、哲、真、鷲、坂、上、田、村、丸、の、四、將、勅、命、と、奉、り、て
軍、装、美、く、整、都、と、進、莖、と、真、洲、へ、掃、小、と、ん、で、下、り、ける
感、靈、夢、大、養、得、奇、子、坂、上、田、村、丸、遇、延、鎮、條
抑、今、度、東、夷、征、伐、の、副、將、軍、小、任、せ、れ、る、中、の、一、人、坂、上、田、村、丸、と、り、る、八、從、三、位、右
衛、門、督、坂、上、田、丸、の、嫡、男、正、四、位、上、大、養、の、子、け、り、大、養、年、四、十、二、超、る、と、て、
子、あ、れ、を、歎、た、夫、婦、初、瀬、の、觀、音、小、新、社、を、う、け、七、日、齋、籠、し、て、万、望、一、子、を、授、
け、る、と、信、心、を、凝、り、て、祈、り、る、小、使、三、浦、正、徳、智、恵、之、男、の、誓、願、下、り、く、ふ、に、
七、日、滿、ち、る、夜、の、曉、の、夢、小、金、甲、を、着、し、戦、を、推、下、し、神、人、出、死、し、大、養、の、妻、乃

口中飛入りてきて多覺多。夫妻ひくく夢と語合あはれ。夢のついでに
一由、奇異の思ひをあらはし、是正しく観音菩薩垂我後の祈願を納受在り
一子と授けり。おろそと最頼母く思ひ夫婦佛前小額著て佛恩を拜謝
し、下向し、小果とて程なく妻女妊娠し、十月満て平小玉の如く男子
出生し、大難夫婦大不始び掌中の玉と鍾愛、荒れ風の中せと慈
云々々々小嬰児の頃より普通の小兒より大體小く常の兒の如く啼更あ
敢て物發せしむ無病して健小生、六七才の頃より手跡を習ひ儒書を
讀み記憶よく、一度びては忘るゝ更わく、機衆童小勝り且又力甚く強
く、七八才の頃より血氣の若者と稱し、ぬる大石を小腕小く、持運小更
重けたる色も、ええきれむ緒人驚嘆し、奇重かりと稱し、父大難も奇
かりと感ぜる、更度く有る由、突も観音の授けり、子たれを尋常の小

兒と異なり、なりと思ひ、あゝ電愛し、大切小と育つる。然中一時大養の終り
真福寺の僧来りて、田村丸の人相骨法を見甚く奇とて、大養小語て曰、
賢息の人相を看み、小大好相あり、後年必む天下小名を車ひくを右持し、成
り、又、賞美し、大養深く、悦び謝し、曰、渠ハ初瀬の観音小祈願
を、授けり、生見小く、其時の夢、小金の甲冑と著戦を持する神人、愚妻の
口中飛入り、見て、程あり、妊胎し、出生せし、わりと、語り、小僧、感嘆し、
され、普通の小兒と異なり、ええ、理り、其神人を、多門、天、小、觀
音、三十三身の中、多、神將、なり、とて、田村丸と、礼拜し、帰られ、是より、維、
かく、田村丸を、見、沙門、天の、再、誕、なり、と、言、觸、り、斯、く、田村丸、成長し、と、年、十八、
小、及び、身、六、尺、三、寸、胸、板、の、厚、一、尺、二、寸、鼻、隆、準、と、眼、光、星、の、如、く、声、鐘、の、如、く、
十里、小、御、音、丸、養、力、底、を、あ、り、馬、打、物、の、技、は、り、も、更、なり、兵、書、小、通、下、陣

始もと言終り翁別を告て東方へ行去ひた其より拙僧は登小住し春秋
送る更二年ふ及も彼行睿居士敢て歸きまらむ余待まらば所を尋
廻りひり山科の東牛尾山く巖の末老公羽の履一背有と認め茲小於拙
僧はく考ひ彼行睿居士と名告し翁ハ觀音菩薩垂の化身小く我小此
土地小道場然同をむらん方便なりと始て悟り此菴室を歸り教小
任て佛像を刻し寺院を建立せん欲とれども人自一如く年歴する老樹拙
僧が自力不及及るもあが地形もまた樹木陰森と山石屹々奈何
とする更能く只期のゆるん待ん外小絶とる方便利なり一向小
觀音經と千手陀羅尼を誦して旦送りひり前夜大風吹強雨降
山鳴溪應震動と更終夜不止曉方漸く風止雨止り物音靜り
也今朝起出て又いへ樹木悉く抜け山石裂破確々土地平面小なり

堂塔を建る便り成得て是佛堂を造立すとた時節未り觀音の妙智
力成ひく樹を抜岩を頼りひりあめと思ひ山中と見巡りひり最乃落
小巨なる鹿二頭斃死といひた是前夜觀世音の命と承て樹を抜岩を
頼りて勞れ斃ひひりあめと思ひ彼所埋し印小石を建今有鹿置道いと
いと長くと物語るれむ田村丸始終をせ深く感れ我も多年觀音目を
信仰し土地を擇し一字の觀音堂を建立せんとかも更久くれども其
宿願を遂げぬ今日不斗狩り出く此山中小入脚僧小面會して右の物語
を更更偏小觀世音の道すれ遇りあめとて成る我脚僧小力添俱小
觀音堂を建立すとる我故宅せむ二匠人夫を招れ集り明日當出く越
人間脚僧指揮して其靈木を伐せ先觀音の靈像を彫りて入とて其小
を延鎮大不歡喜如斯あれを拙僧が年来の願望成就せん更何の疑う

あんとて拜謝し、これを田村九堅く契約し、私宅へ歸り、其羽を日々に工
匠人夫并小糧金銀を音羽山の延鎮へ送り、延鎮は小堪
こ。彼老樹を伐せ、其材を以て、御長八千千眼の觀音の靈像を彫
刻ふごうとせむ。然小田村九今度東夷征伐の副將軍の任と蒙り、大悦
是先祖の名を引與し、子孫繁昌の基と、閑く端なり。然とも佛菩薩の加護と
祈むんを全れ、勲功をさぐる、思ひ音羽山に延鎮の菴を結ぶ、早
千千觀音の像大半成就し、これを田村九大に怡び、延鎮小向ひ我今般勅命小
依て東夷征伐の副將軍の任を賜り、師我を為し、觀世音小祈誓言して
味方の利運を祈り、我も自願んて、過半彫る佛像小向ひ、礼拜し、願ハ
大慈大悲觀世音菩薩大威神力を、加て東夷と安く夷め、凱陣の後ハ
堂塔を建てる、永く此地小鎮座か、なると、丹絨を凝と、祈念し、延鎮小

別を告て、歸り、出陣の用意を整、諸大将と、小東國へ下られ、

官軍と夷賊千奥州合戦

田村九武勇討大熊九條

去程、征東大使大伴弟六、副將軍百濟王俊哲、藤原真就、島坂上田村
大呂、小奥州を望み、下向せ、東海東山兩道の軍勢、追々小地加り、
陸奥國府へ、看到せ、頃ハ三万余騎、小及、諸大将、小勇、要塞の
地、小數個所の陣營を構、逆茂木と、植兵糧を運せ、今度と、夷賊の根
を斬葉と、枯ん、小軍議、攻伐の準備と、急、時、小夷賊の首
領、大熊九、去、年、の、軍、小、歩、勝、て、官、軍、恐、ろ、小、不、足、と、懼、り、延、鎮、小、已、か、時、の
虎威と、特、て、州、郡、と、掠、る、意、を、恣、に、漁、酒、小、賣、と、し、若、無、人、を、差、遣、
々、小、又、蝦、夷、の、嶋、夷、の、巨、魁、小、高、大、名、鹿、路、王、と、り、由、者、二、人、あり、と、幕、下、小、屬、
と、る、夷、賊、一、万、余、人、を、從、へ、是、も、奥、州、へ、音、入、と、郡、縣、を、劫、り、掠、る、大、熊、九、と、千

小ありいやく逆威を逞あつ。其勢九万騎中余り。おも悪路天露を降し
雲を起し怪れ邪術をまへ行ひしを。たゞ京勢百方騎あつとも。只一戦
散らん更へと易と侮り誇り。己が柵を出る。官軍の陣營小向ひ廣野。數
箇所の屯と構多。官軍の大將大伴弟名是を見。思た夷賊の奉止
味方の猛勢を見。旗を伏置脱で降参さる。つら速く逃退し。たゞ高
も来つ。虎の影を引んと。奇怪あれ早。弛向ひ一戦小伐散せよ。つら
たれ多と田村九練。同軍法少。小敵と慢る。つら増て賊兵小勢
小あり。然も地の理小。季々。つら怪ん。味方の敵軍より。勢あれ。つら
さむ諸國の寄合勢。つら地の理を。つら知れ。つら軍を。つら守り能く。敵の
く。却て敗軍。銚先。小流を。つら到り。只陣營を。つら守り能く。敵の
虚實を探り。謀と定て。後彼を。つら伐んと。上策。つらつら。つら弟

呂嘲。い貴殿。名小。つら。武勇の人。思ひ。小案の外。臆病。柔弱。ある
更。つら。つら。軍法。少。先。つら。時。つら。人。を。つら。制。先。つら。つら。時。つら。人。を。つら。制。つら
つら。つら。去。年。里。繩。古。佐。美。が。輩。貴。殿。の。如。く。敵。を。つら。思。つら。長。評。議。小
日。送。り。て。一。度。も。勝。利。な。つら。大。小。兵。を。折。れ。見。苦。く。都。逃。上。り。て。官。軍。の。威。を
損。其。身。八。君。の。脚。不。與。を。家。を。つら。是。臆。病。未。煉。より。更。發。さ。る。つら。予
苟。も。帝。の。御。擇。小。あ。つ。征。東。大。使。小。任。ず。れ。て。下。向。せ。上。六。行。時。も。猶。豫。す。べ
れ。小。あ。つ。王。威。を。首。小。頂。れ。つら。賊。徒。を。一。戦。小。伐。夷。け。君。の。宸。襟。を。出。女。小。ま
つ。人。更。方。寸。の。内。小。あり。貴。殿。後。陣。小。在。て。つら。武。略。の。つら。見。物。せ。つら。危
し。飽。す。て。大。言。つら。田。村。丸。其。練。つら。を。知。て。再。び。言。つら。と。想。て。退。く。つら。弟
つら。百。濟。王。俊。哲。小。八。千。余。騎。を。授。け。て。先。陣。小。進。せ。藤。原。真。就。馬。小。八。千。余。騎。を
授。け。て。二。陣。と。其。身。八。万。五。千。余。騎。を。領。し。三。陣。と。なり。田。村。丸。小。自。異。明。せ。んと



大熊丸



田村丸

田村丸の如く
賊將大熊丸討つ

田村丸の如く

血氣小任せ前後の思慮もたかく延暦十二年八月七日の未明より三軍小女狼と
つらせ金鼓を鳴り螺を吹て押出し久田村九八弟六呂敵を慢り必死敗軍
をなすと思ひ味方の戦ひ難義及む是れ救んと二万余騎小後陣
小備へ合戦の申すれを見物せしむる去程小官軍の先陣百濟王俊哲平
余騎を魚鱗小隊貝鉦を鳴り喊を發て賊將大熊九が陣へ押寄る賊
方も兼て官軍の押寄を知れ大熊九五千余騎小押出し西勢暫く矢
合へ頓く抜連く相かくる小掛つち戦ふ此時官軍の三陣藤原真就馬ハ
八千余騎を九隊と路を横切り賊將高九が七千余騎おとせ陣向ひ
たれ高九も勢分だ出して迎へ戦ふ程小西所の敵味方の喚叫声絶ちたる馬
啼の音四見小狼音々凄しく烟塵天を曇りたる然る小賊軍官軍の鋒先
小當りより又と思へ旨有るる漸く小引退く小と官軍得りりと勢ひ猛く

伐や進めと呼く勇氣を以て追進む賊兵ハ倍色めきて崩れ退く三陣の
大伴弟七名大の勇も須波軍ハ勝るも此隊も進んで味方ハ力と併し敵を
塵おせよと下知たれ二万五千騎の新兵の京勢大狼の如く喊を發て馳行
々々小忽ち森の裡より一獲の狼煙を揚ると比々此所彼所の森林數法トを
賊方の伏兵起り三九万五千騎弟七名が勢と前後左右より取圍み矢を射
つけ喊を發て採立たる京軍是小一驚と喚ひかぐ大軍といひ新兵あれ勢と
分り相當り大水小威て挑む戦ひ多し此時追ひ逃足たると大熊九高九が勢忽ち
足並を整へ盛返して攻進く曳く声ておまると京軍安ん相違ひあぐ
三將三方小分れ下知をたて爰と大吏と撰戦るところ小俄然として悪風吹起
りて土砂を吹まると否や朦朧と霧降出し足とく四方冥々として咫尺の間も
見えんごとくたりたれ京軍大の勢敵味方を弁する爰と得て周障登り

向者素具西路王が邪術を以て降せし霧多れ。賊兵も霧のよめ小服乃
らむい更あをを。狼狽強く京軍と擇む討つる。小官軍千員陣波敷
をまきと。只路を求めて逃んずれも。霧と土煙小眼眩して東西南北を公手
さかぐ。盲人の杖を失ひ。如くなり。時小坂土田村九八後陣小備て。先隊の合
戦の体を見物と居れ。ゆる敵軍偽り敗る。退を味方是を滅小敗る。逃
る。心得ず。進行を見見。必と敵の謀計小中る。思われ。小果と敵の伏
兵起り。如くも。俄小雲霧の起り。れ。田村九馬の鞍を叩く。諸を賊討つ
中。小幻術を行く者有と覚る。昔蜀の孔明南垂の孟獲を征伐。時敵幻術
以て。雲中より魔軍と降。蜀兵を悩せ。孔明其邪術を。知歟類の
生血を。とて。大軍小洒ぎ。け。を。幻術破。ま。軍馬と。入。入。豪木偶。なり。と
名。今も其理。あり。馬の血。と。器。入。入。術。を。叩。用。意。せ。と。下。知。せ。と。

れを馬廻の士令小従ひ馬を刺し其血を妻の器小受溜。是を携ぐる。斯准備。綱
ひくれ。田村九態と五百余騎の小勢。を。率。疾風の。戦場。に。引。り。用。意の
馬血を。空。中。へ。時。散。させ。る。小。安。未。の。如。く。悪。路。王。の。幻。術。破。ま。風。止。霧。散。香。て。曰
の。白。日。と。成。る。小。官。軍。夜。の。明。る。心。地。大。小。怡。び。又。隊。を。整。と。敵。小。相。當。り
る。田。村。九。八。馬。隊。跳。と。會。釈。も。た。村。雲。と。敵。中。割。り。入。長。五。尺。三。寸。寸
目。六。十。竹。小。余。る。大。太。刀。と。電。光。の。激。と。如。く。闘。り。勝。つ。る。賊。兵。を。馬。武。者
歩。率。の。氣。も。た。當。を。幸。と。斬。て。落。と。此。太。刀。下。小。臨。む。者。小。曾。も。甲。も。溜。ら。む
る。一。太。刀。小。二。人。三。人。切。て。落。され。一。瞬。中。小。三。五。六。人。命。と。損。手。負。の。者。數。あ。る
と。勇。賊。此。饒。勇。小。戦。慄。れ。是。を。鬼。小。神。人。間。業。小。ハ。の。あ。り。と。暗。と
消。我。先。と。味。方。と。押。合。八。方。向。れ。靡。い。敗。走。を。田。村。九。八。倍。勇。力。加。り。敵。中
を。縦。横。と。る。吏。人。か。れ。街。を。往。か。如。く。弥。勇。と。奮。ひ。敵。を。討。吏。州。を。并。維。が。如。く。強

勝利を得、全く田村丸の助力を得るところなりと。第六名始の過言と悔く其
勞に謝し陣營小飯りて軍勢を点檢する。三將の麾下小戦ひの者三千
余人千肩千二百余人敵の首を得、更千三百余級と記し、田村丸八百余
人の勢一人も死亡の者なく、千肩千二百五十余人敵首を得、更七百余級生捕の
者二百余人及び、時小弟一名、俊哲、真誌鳥の三將、田村丸の高名を賞して、後
再び賊徒征討の軍議する。田村丸曰、賊軍六軍の進退法度なく、陣立とて
嚴重あり、これを破らん、更難くせん。も夷賊の中、幻術を以て、霧と降を者有
し、且將軍ホ案外の敗をとらむ。夷秋の國ハ古より怪術を行ふ者有
と、及びい然とも争う久く、王威小敵を更と得べき、某皇天の佐を得、
僥倖小勝利を得、入の賊首と討取れ、残る夷賊を誅伐せん、更難くせん、敵
小臆病風のため、ぬらう機を弛むと、征伐し、い、とやされ、三將、然、と

同意。羽立日侍候と出、敵の動靜を窺ひ、むる。小賊將高丸、悪路王、昨日の軍
小多、士率と折れ、殘黨を、龜集、神樂岡の東、大川、大船と浮、登、と、乗
夷賊を招、聚、て、後、再び、一戦、小、及、人、と、專、う、士、率、と、龜、募、る、を、回、り、報、し、る、あ、へ
さ、す、を、敵、小、勢、の、付、さ、る、内、小、伐、平、ん、と、弟、七、名、ハ、一、昨、日、の、合、戦、小、金、倉、と、受、て、進、退
意、小、任、せ、ざ、れ、を、出、陣、を、止、り、田、村、丸、及、小、征、東、使、と、な、り、真、誌、鳥、俊、哲、と、も、一
二、万、五、千、余、騎、を、引、率、と、神、樂、岡、と、出、張、し、る、去、程、小、夷、賊、ハ、初、度、の、軍、小、京
軍、と、多、く、討、取、れ、も、又、田、村、丸、の、為、小、多、く、手、勢、と、折、れ、離、散、せ、者、も、多、く
刺、へ、大、熊、丸、と、討、ま、れ、を、上、下、皆、田、村、丸、の、武、勇、と、恐、ろ、く、小、京、軍、多、勢、小、く
攻、来、る、を、追、く、穿、え、れ、を、船、中、の、賊、兵、木、の、戦、慄、九、心、怖、の、色、を、表、し、る、と、高
丸、悪、路、王、是、を、制、し、田、村、丸、一、人、勇、力、と、何、と、怖、ろ、く、不、足、な、れ、我、妙、術、を、施、し、て
敵、と、拉、ん、更、方、す、の、内、小、あり、敵、小、神、樂、岡、を、起、さ、せ、て、ハ、悪、ろ、く、早、く、味、方、神

神岡(池)登り切所(小)支て敵を眼下(小)直下(大)木(石)を投落し又(下)率(小)矢を射る(小)敵(大)軍(多)も漂(乱)る(小)其(小)陣(小)兼(下)伐(下)り追(敵)ん小勝(ど)の(更)有(が)ず(と)て(船)中(小)大(墓)王(盤)真(王)あ(と)り(宗)徒(の)勇(賊)小(二)千(余)騎(と)授(て)田(守)と(獲)せ(高)九(悪)路(五)六(千)騎(を)率(と)て(神)樂(岡)出(張)し(高)丸(八)三(千)騎(小)村(小)屯(一)悪(路)五(五)千(余)騎(小)山(上)と(り)登(り)て(陣)と(構)(木)石(積)貯(矢)束(解)て(待)け(り)斯(く)官(軍)二(万)五(千)騎(を)三(隊)小(分)先(陣)百(清)王(俊)哲(二)陣(八)藤(原)真(就)鳥(三)陣(八)坂(上)田(村)九(一)勢(く)旗(旗)を(翻)し(隊)と(整)て(神)樂(岡)押(到)りて(臨)る(小)賊(徒)山(上)小(屯)と(り)多(く)旗(旗)を(風)吹(麻)靡(一)戦(ひ)を(待)体(た)り(神)樂(岡)と(り)む(ま)の(高)山(小)と(り)あ(る)を(一)と(思)ひ(の)外(峰)高(く)攻(急)峻(小)と(り)容(易)登(が)ら(小)賊(軍)山(上)小(充)満(れ)む(狂)忽(攻)登(入)せ(り)も(り)俊(哲)真(就)鳥(田)村(九)小(面)會(と)軍(議)と(り)小(田)村(九)白(味)方(ハ)地(理)を(知)れ(を)先(山)上(の)地

勢(と)探(す)上(小)軍(略)を(定)む(り)と(り)兵(士)中(の)匪(人)を(招)寄(山)上(の)地(理)を(向)け(る)小(其)者(が)白(此)岡(ま)の(大)山(と)中(に)あ(り)ぬ(と)り)此(方)より(登)り(し)路(狭)く(峻)く(と)も(槍)多(く)生(茂)り(し)を(容)易(小)攻(登)が(ら)ぬ(が)只(敵)を(鉤)下(し)て(伐)り(と)て(並)る(を)い(り)んと(り)多(く)田(村)九(ま)で(你)が(り)所(理)り(ぬ)れ(も)敵(ハ)險(阻)を(特)と(り)屯(を)し(て)鉤(下)と(り)も(下)る(す)が(り)絶(え)た(手)段(と)有(と)て)急(小)攻(登)ん(と)も(せ)ど(野)陣(を)張(て)守(禦)の(備)を(な)し(諸)士(率)と(り)多(く)出(て)芦(苳)を(數)多(す)荷(せ)手(頂)小(東)ま(を)積(貯)(安)用(と)て(旦)送(り)々(也)俊(哲)真(就)鳥(其)意(を)あ(ら)せ(已)小(十)日(む)ら(の)月(成)歴(れ)ぬ(堪)ぬ(て)田(村)九(小)向(外)も(何)ま(の)日(賊)軍(と)攻(伐)と(り)死(や)し(催)促(し)小(田)村(九)亦(り)近(日)山(上)へ(攻)登(り)ぬ(今)暫(く)待(め)と(り)德(徒)小(亦)過(す)三(日)と(送)り(々)小(九)月(十九)日(の)午(過)る(頃)す(西)風(吹)出(り)日(暮)る(小)徒(ハ)漸(小)強(く)吹(々)る(と)田(村)九(士)率(小)命(と)り)積(貯

枯艸小悉く火を以て酒を飲めしめ此枯艸を一人五把づ携て神樂岡夕闇
の内小暗の潜登り如此くともくとも謀と一言會て二百人をも山登を借真
就鳥俊也と招れ今夜敵の山陣へ夜討をく發せしむる。各位出陣の準備し
とトされれを兩将軍申す不知案内の敵地とらひ殊更險阻の山坂を夜中
攻登人更如何あらん危をあらむ。及も征東大使の下知あるを領堂と士平小
兵糧をつる各初更過る頃出陣の準備全く調ひたる也。田村九郎と達し
是よりして田村九郎隊賦し。自身先陣とたり三陣ハ俊哲三陣ハ直就鳥と定め。夜
討のありぬれを袖符付相討を定め隊々押出し。人々放を合し馬ハ響と
縛り潜くと坂道と押登りたり。是より前田村九郎山路へとせし率ハ山
中の樹林の中潜り入彼枯草と此所彼所積れ相圖をたて二百余人は
小焼艸火をきくれを勿心と煽くと燃え折しも秋の末より黄く枯る樹木

多く。まもり槍山かれ火の燃移る更早く荒吹西風吹まられ暫時が程
山の樹木炎くと燃ゆ。二百人の士平ハ平場ハ寄集り一斉ハ喊を噴き其
此時田村九郎勢ハ坂を半より多し山上の火光と鯨波を相圖と。大いハ喊
せたり勇々進んで攻登りぬ。三陣三陣も是ハ機を得先陣ハ引續て攻登
りたり。賊方の陣ハ京軍久く攻よがる也。油断を生じ。今夜押寄なりとも
思もよぬ所ハ俄ハ山中の樹木燃え間近ハ喊の聲の震ひ起る。仰天ハ浪波ヤ
敵軍寄ちるとらよ太刀よと斬れて強動鼎の粟の沸がて。加えぬと槍の
燃え更あれを梢より梢ハ火傳ひ火の屑の落る更火雨の降が如くあれ。周障
狼狽とて維り敵と支んとする者なく我先と東の敵を敗まし。官軍ハ火中
カ小追く山ハ攻より周障迷ハ賊軍と追うけ追詰討程小勇賊討く者數知
ど或も逃んとして谷ハ落重りて死する者も多し。大将悪露王も心發らる

味方と制して敵を防ぐと声を洩して下知されぬも崩れしる勢のありし耳
突入る者もかく禁の高丸の陣をきして敗下りし悪路王も力なくとも小敗性
味方お誘われは高丸が陣を落行る高丸の陣小山上の大光と鯨波小島
た是ハ何事の起しやとて追く作候と出さうち早山上より逃下し賊兵高丸の
陣へあられくるふと禁の賊軍も周障強だ京軍の夜討小寄しと心得りし
討て同著しる田村丸緒軍と励此勢のを弛を禁の敵を伐散せし
下知せしるふより勝誘る官軍破竹の勢ひをかり十九夜の月八分より喚
叫んで太山の崩れ如く坂を落し高丸が陣へ伐てくるさあれ小強乱し賊
兵此強勢お恐怖し合も支む川辺の方敗走をさうとの悪路王も心強て
幻術を行ふ違もかく馬を拍て敗落高丸官軍小取囲られ已討て
小部下の士平大勢引返し血路を切開れて救ひ出さるる小依万死を

免き是も味方の船陣きて敗走り主領の二人々如斯あれも其餘の敗
率も八方へ散乱己がさう落行を官軍是を追討或生捕各々
分外の高名と願する田村丸の地理を不知敵地を長追せを過らあらん
と退釘を鳴して勢と班り大光凱歌を發て軍威を示し其夜ハ山下小
陣をとり軍馬の疲勞を休め討取し首と点檢せしむる小首八百五十五級
生捕二百七十余人とと紀し去程小賊至高丸悪路王六神樂岡の二戦小
大光兵を折れ今ハ勢の極り官軍小拒敵せん更も叶ふれ高丸大光力
屈し悪路王大墓盤具們と議し多ハ敵將田村丸勇小し且能兵隊用ひ
奇針を以て大光味方の兵士と折るこれ二且敵の銳氣を避く蝦夷地退
れ嶋人を逼聚め京軍都凱陣せし後再ハ此國へ乱入して二雁を伐取んを
如何と言々る小悪路王首と揮否く勝敗ハ兵卒の常なり一兩度の敗軍ハ

氣を屈するハ大丈夫の所業あり。今味方三千の軍兵あり。皆此船陣に守
りて銳氣を頼み内ハ散れず。兵卒も追々小池歸る。其間ハ京軍長陣
小退屈し勇氣の抜るハ待一戦を催す。我々妙術を施して敵を挫か
む。田村丸を虜かせん。更難くむと云ふ。大暴王盤具王ホもともハ練
々。是ハ依て高丸も其引小後ハ退去と止まり。船陣を守り離散せ
士卒と招れ集りたるハ。神樂岡の敗軍ハ逃散し夷賊追々小収聚り又四
千余騎ハ成りたる。田村丸俊哲真駒鳥の二將ハ賊軍ハ勢ハの付たる内
ハ伐平ぐ。川辺まで押出して屯と張川面をえんとせむ。川の廣ハ二里
小余リ水勢岩石を流を許ハ疾く。川の上下ハ小舟一艘もなく。賊徒ハ大船
八九艘ハ乗て東岸ハ屯たり。田村丸水練の者ハ命どハ川の瀬おとせ
む。小深丸更底をえむ。去々水勢矢を射る如くあれハ船伐ハ渡る

とも櫓權水掉の三人もなく。いやく急ハ征伐せん。もた軍儀區ハ中
て日ハ送るうち。弟ハ名も金澹平愈。まり加りて敵と征伐の商儀を
々々。小賊軍ハ軍勢収り増々五千余騎ハかりん。さむ敵を二當り
先敗の耻辱と雪んと十月十日ハ五艘の艦艘を乗出。官軍の陣ハ向ハ
々々。官軍の緒大將是をえん。船と陸との合戦ハ利あり。敵と陸ハ鉤とて伐
んと二里半退て屯。たれを案のて。賊兵四千五百余騎陸へり。上々隊を
々々。喊を發り鉦鼓を鳴とて官軍の陣ハ向ハ矢を射りて攻進む。官軍
々々。待殺る。更あれハ。喊を令ハ矢を射る。逸雄の若者ハハ早拔
つれ。ちて。敵味方。合て追つ返ら。大花を散と戦ハ。馬路
王と戦ハの夜合を令。馬上ハ兄文を唱。幻術を行ハ。今々。暗
天候ハ。曇リ真々と暗かり。悪風吹起リ。土砂を捲上。且朦々と霧

降起て物の黑白も見えなむと成名に。官軍大系、須波、例の幻術と
強だ惑ひ隊之乱と強立賊兵得ると惣軍一度小進と無二無三切捲
るおと官軍倍周陣して討く者數をあつと田村九兼てうる更も有んや
歎類の血を多くとて用意を此時士卒小命と空中へ時散させると
例の如く風止霧霽零れも賊軍八倍勢ひ猛く打たると山崩とる官軍
足並を三敷一うの支度路小成て見えると何回より来ともあつと二人乃沙
門と烏帽子淨衣を着る社人忽と頭を出追来る賊軍小向ひ袖と
てお拂ひを忽ち大風吹出し賊軍と吹倒すと將軍の物を倒さか如し
小依て田村九真龍鳥俊哲弟と名銘と味方と筋波賊後ハ利色小成ると
返せくと下知れを此號令小機を整へ官軍二口も盛返して切進めを又
賊兵捲りまけて足場と敗退きると悪路王大系怒り再び兎文と唱へて邪

